

[特集] 沖縄・悠久の刻を紡ぐ島酒～島人たちの誇りとぬくもりに触れる～

た^樽る

[ほろよい手帖]

5

2014 May
TARU No.379
390
yen

35th
おかげさまで
創刊35周年

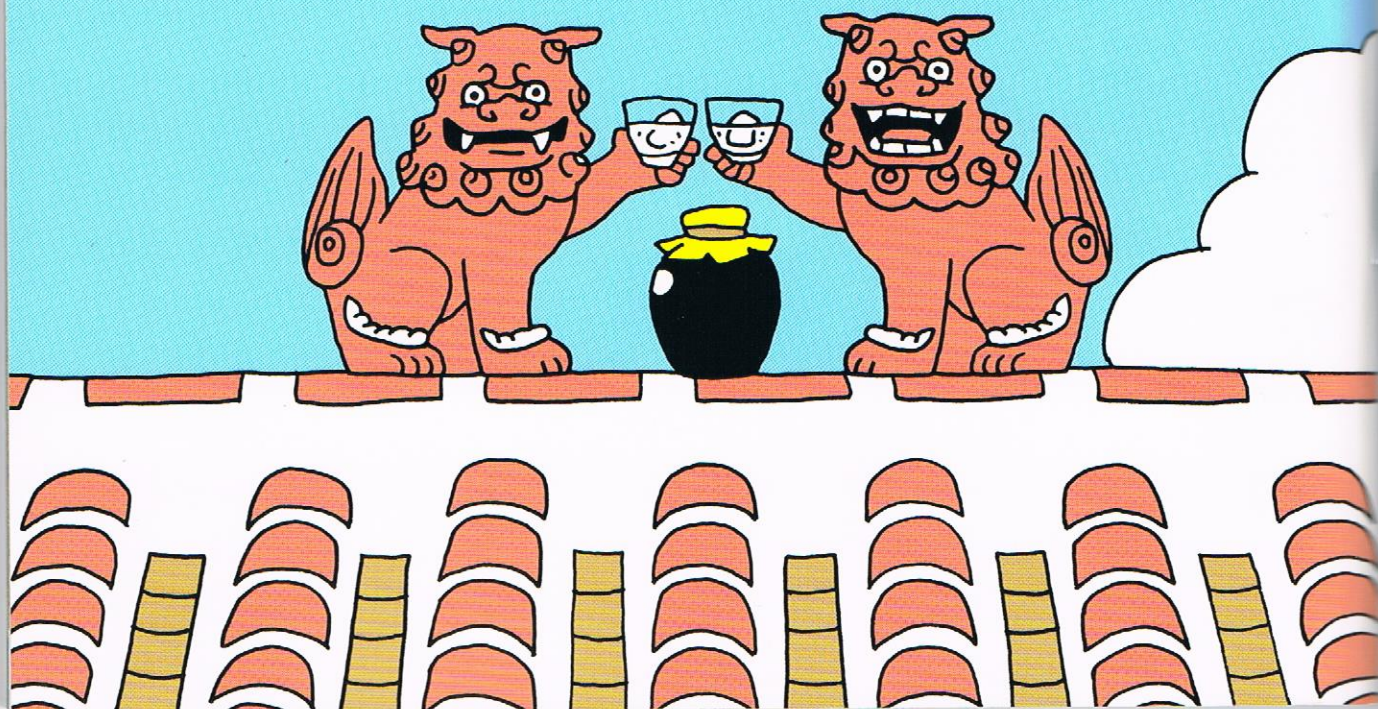
島酒で ゆんたく

酒の家系図 石原良純

「巻頭言」酒ゴコロ、男ゴコロ

椎名誠

立ち飲みがある町 新山ひろし



お酒の席の大定番！ 呑まれる前に飲む！ 『琉球 酒豪伝説』

老若男女に酒文化が根つき、生活の一部としてお酒が親しまれている沖縄では、飲み会のスタイルも独特だ。例えば、一般的な開始時間は21時以降とやや遅め。一旦帰宅して、シャワーを浴びたり、ご飯を食べたりとゆっくり過ごしてから出かける。スタートが遅い分、自ずとお開きの時間も遅くなる。夜中の2時頃、休日前なら朝方まで…なんてことも珍しくないのだとか。

飲みすぎて二日酔いが心配な時、強い味方になってくれるのがお馴染みのウコンだ。なんとと言っても沖縄はウコンの本場。数々のサプリメントが発売されているが、地元で人気を博し、本土にも広がっているのが『琉球 酒豪伝説』。ネーミングにもグッとくる。県内の契約農家によって無農薬栽培のもと生産された100%沖縄県産ウコンのみを使用。琉球大学との共同研究開発による、4種のウコンと4種のハーブの総合バランスが体をサポートしてくれる。飲用は飲酒前と後、どちらでも構わないが、「呑まれる前に飲む」のが鉄則だ。

『琉球 酒豪伝説』

1.5g×1包入・200円、1.5g×6包入・1200円（いずれも税別）

販売元／沖縄県保健食品開発協同組合

TEL.098・851・8874



泡盛に酔いしれる贅沢なひと時 沖縄県泡盛同好会40周年記念 全国大会開催！

(文／沖縄県泡盛同好会 事務局長 松尾一行)

沖縄の祖国復帰2年後の1974（昭和49）年に沖縄県泡盛同好会は設立されました。そして2014年を迎え、40年の節目を迎えることとなり、図々しくも「全国大会」と名付けて全国の泡盛同好会などにご案内をしましたところ、県内外15都道府県から600名以上の泡盛ファンが集う、なんとも賑々しく、豪華で、楽しいパーティとなったというわけです。

北海道泡盛同好会などは厳寒の地から「かりゆしウェア」姿で会場に現れ喝采を浴びるなど、多士済々、しかしいずれもが琉球泡盛のファンという点にうれしくも、頼もしい方々ばかりです。沖縄県内13の酒造所が提供する自信の泡盛が300本。お好みの泡盛をご自由にどうぞ…という訳で泡盛ファンにはこたえられないひと時でした。

大会では沖縄県泡盛同好会のメッセージ、「家庭で古酒（クース）を育てよう」を発表しました。

結婚式やお子様の誕生、初孫のお祝いに泡盛を仕込み、子や孫の結婚式に「古酒」でもてなそうというもので、各家庭それぞれ自慢の古酒を育てましょうというメッセージです。

来年以降、この「我が家自慢の古酒オリンピック（仮称）」を検討中です。決まりましたらぜひ参加してみてください。



1990

1980

1970

1990年～2000年代
空前の沖縄ブームが到来。1992年には首里城が復元され、それに合わせてNHKの大河ドラマ『琉球の風』が放映。芸能界では歌手の安室奈美恵さん、SPEEDをはじめとする沖縄出身の芸能人がブレイクし、他県からの観光客も年々増加。それに伴い、日本各地の愛飲家にも泡盛の美味しさが伝わるようになった

1980年代
居酒屋で泡盛の美味しさを知った人たちが、人気を定着。泡盛の伝統的製法による、泡盛独自の香りや奥深い味わいが人々を魅了した。これまで洋酒全盛だった沖縄県民の嗜好に、泡盛という選択肢が加わった

1970年代
1972年に沖縄がアメリカから返還される。国税事務所には鑑定官が置かれ、泡盛の品質を高めるための取り組みが進められる。また、他県の大手居酒屋が沖縄に進出し、泡盛の販売領域が徐々に広がりをみせる。同時期、那覇の久米仙酒造がグリーンボトル入りの泡盛を発売。それまでは無色透明のビンが一般的だったが、オシャレなデザインボトルを出すことで、イメージアップにつながった